

新聞代わりに使えるウェブブラウザを目指して

東京農工大学工学部 増田厚司

1. はじめに

パーソナルコンピュータへの入力手段としては、マウスとキーボードが一般的であるが、ペンによる操作を前提として設計された OS (Windows XP Tablet PC Edition) を搭載するタブレット PC の登場によって、ペン入力に注目を集めている。

そこで、このタブレット PC が生活を豊かにする一助となることを期待して、タブレット PC とこれに搭載されたウェブブラウザによる応用の一例をここに提案する。

2. 「新聞代わりに使える」とは

ここでウェブブラウザを新聞代わりに使えるとはどういうことなのか考えてみたい。一般的にいう新聞とは、時事に関する報道をはじめとした、知識、娯楽、広告を伝達する定期刊行物で、自宅をはじめ、電車内、オフィスなど各所で閲覧できるものである。ウェブブラウザを新聞代わりに使うためには、最低でもこれらを満たすものである必要があると考えられる。

ウェブブラウザは、もはや時事に関する報道をはじめとした、知識、娯楽、広告などの情報を得る手段としては一般的な手段となりつつあると言える。むしろ、速報性や双方向性においては、新聞よりも遙かに優れていると言えることができるだろう。

しかし、自宅、電車内、オフィスなどでの閲覧については、現状では常にどこでもウェブサービスを受けられるわけではないため、ウェブブラウザが既存の新聞よりも優れているとは言い難い。しかし、これは、ブロードバンドの普及と相まって急速に普及している無線 LAN を活用することである程度解決できる。たとえば、自宅にアクセスポイントを設置することで、自宅のどこにいても(トイレでも)ウェブブラウジングが可能になる。また、最近増えつつあるホットスポットを利用することで、少なからず問題を解決できるだろう。

3. ペン入力とウェブブラウザ

紙の新聞代わりにウェブブラウザをつかうとすれば、そのインターフェイスには紙と極めて親和性が高く、多くの人が慣れ親しんでいるペ

ン入力インターフェイスを採用するメリットは大きいと考えられる。

しかし、世に存在するウェブブラウザは、ペン入力を前提として設計されてはならず、その多くがマウスによる操作を前提として設計されている。このようなウェブブラウザをペン入力によって利用しようとする、マウスとペンの特性・操作感の違いにより、少なからず不便が生じてしまうことは明らかである。

そこで、ペン入力による快適なウェブブラウジングを実現するためにはどのようなブラウザが必要だろうか。

筆者はこれまでの研究で、電子ペンと対話型電子白板で利用することを前提としたウェブブラウザの設計と作成を行った。このウェブブラウザは、ウェブページに対する操作、スクロール、検索のためのキーワード入力など、ペン入力による利用を前提として最適化されている。

また、このウェブブラウザは、表示一体型タブレットで利用する場合にも、既存のウェブブラウザに比べ利用しやすいものであった。

つまり、このウェブブラウザをタブレット PC の機能に対応したものに作り替えることで、新聞代わりに使えるウェブブラウザとして十分に利用できる可能性が高い。

4. おわりに

既存の新聞の代わりにペン入力のタブレット PC と、ウェブブラウザを用いることで、手書きメモ付きスクラップブックが可能になることも見逃せないだろう。手書きメモに対して文字認識を行えば、手書きメモまでも含めた過去の記事を検索することができ、既存の新聞よりも遙かに便利になることが期待できるだろう。

そして、新聞代わりに使えるウェブブラウザが様々な情報を便利に取り扱うための手段として活用されることで、日々の生活が豊かになることを期待したい。

参考 web ページ: ペン入力資料館

<http://hands.ei.tuat.ac.jp/pen/>